

平成 10 年度瀬戸内海東部海域赤潮広域共同調査(抄録)

酒井 基介・高木 俊祐・宮田 匠

本調査は、東部瀬戸内海の水塊構造と水塊の動き並びに *Chattonella* 栄養細胞の初期発生、増殖及びその他のプランクトンの動向について全体像を立体的に把握し、赤潮発生要因を明らかにするとともに赤潮発生予察技術の確立を図ることを目的として、平成 10 年 6 月 29 日～8 月 24 日の間、東部瀬戸内海関係 5 府県・水産庁及び民間機関と共同で実施した。

平成 10 年度における徳島県担当水域である播磨灘南東部での気象、海象及び *Chattonella* の出現動向について取りまとめたのでその概要を報告する。なお、詳細については「平成 10 年度赤潮対策技術開発試験(海域特性による赤潮被害防止技術開発試験)瀬戸内海東部海域赤潮広域共同調査報告書」を参照されたい。

1 気象

7 月 3 日頃梅雨明けとなり、7 月上旬の間は太平洋高気圧に覆われて晴れの天気が続いた。7 月中下旬は、前線や低気圧の影響でぐづついた天気が多かった。8 月上旬は晴れの日が多かったが、8 月中下旬は数日周期で晴天と曇天を繰り返した。また、本年は調査期間中に台風の影響は一度もなかった。

2 海象

底層水温は7月初めに 20 を超え、8月中旬に 25 に達した。表層水温は7月上旬に著しく上昇し、7月上旬中頃に 25 を超えたが、7月中下旬は天候不順により 24 台に低下、8月初めに再び上昇し、以降は 27～28 台で推移した。塩分は、沖合域では 31.2～31.5、沿岸域では 31 前後で推移した。

3 *Chattonella*

Chattonella は、第 1 回調査の 6 月 29 日に濃縮試料から少数検出され、7 月 2 日には 2cells / ml 検出されたが、その後減少し 8 月中旬まで 1cells / ml 未満で推移し、8 月下旬に数 cells / ml 検出されたが赤潮を形成することはなかった。